

現状のポートフォリオの確認・リバランスを促すアプローチトーク

木内清章 産業能率大学講師

現状のポートフォリオの確認を促すための声かけを挙げ、リバランス等につなげるポイントを解説する。

1 運用開始当初の「運用の目的」「取れるリスクの割合」にお変わりはありますか？

お客様が自身のポートフォリオを見直すきっかけとなる声かけにはいくつかのパターンがあるが、この質問が最も直接的かつ大切なものといえる。

例えば「70歳前半のお客様が、10年前に購入した投資信託の見直しを行う」ケースを想定してみよう。

運用を始めた当初は60歳台でまだ仕事をしており、積極的に値上がりを目指す商品

を好んでいたかもしれない。しかし、70歳台になると「資産をこれ以上減らさない」という守りのスタンスへと変化していることも多い。この場合は、投資信託での運用を見直す必然性が高いだろう。

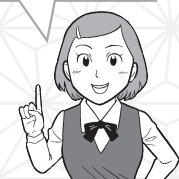
リスク資産の保有割合は「100-実年齢」が目安

また、金融資産全体に占めるリスク商品の割合についても、高齢になるほど保守的に考えるようになるのが一般的である。

10年前は全体の5割ほどが投資信託などのリスク資産であったお客様も、高齢になるとその比率を2〜3割に下げていくという判断は十分に考えられるであろう。

運用の世界でも、一般的な指標としてリスク資産の保有割合限度は「100-実年齢」を目安に考えるとよいといわれている。

一方で比較的若いお客様に



については、運用開始から時間が経つことによって、運用の知識や経験が高まっていくことから「より価格変動幅の大きい投資信託を購入してみたい」「リスク資産の比率を徐々に引き上げていきたい」という希望が出てくることもあるだろう。

つまり、この声かけは、若いお客様から高齢のお客様まで大半のお客様に該当するアプローチ方法といえるのである。ポートフォリオの見直しを促すため本声を積極的に活用していきたい。

POINT

お客様の状況が変化していないか聞いて、運用の見直しにつなげる

2

元本払戻金の受取りで個別元本が減っているため見直しをいませんか？



個別元本とは簡単にいえば購入したときの基準

価額のこと（複数回に分けて購入した場合は平均購入価格）。同じ投資信託でも購入日によって基準価額は異なる。基準価額が6000円のとときに購入したお客様と、9000円のとときに購入したお

客様では、個別元本が異なるわけだ。

一方で、日々の基準価額は、その投資信託を保有するお客様全員に共通する値だ。基準価額が5000円で、個別元本が6000円であれば評価損が生じていることになる。このような場合に支払わ

分配金の有無ではなく個別元本の変化に着目

れる分配金は投資収益配当とはいえないため、特別分配金とされているのである。

特別分配金が1000円支払われると、それによって個別元本も1000円引き下げられる。このため元本払戻金とも称されている。

元本払戻金は課税されないため、実際には得しているわけでも損しているわけでもない。だが、その投資信託の基

川田様がお持ちのキンダイ債券ファンドは新型コロナウイルスにより基準価額が下落したときも毎月分配金の金額が変わりませんでした

そうですね

ただ川田様が受け取られたのは元本を切り崩した形の元本払戻金でその分運用資産に占める債券の比率は減っています

そうなのか…

改めて現状のポートフォリオを確認したうえで資産状況が適切か見直しをされませんか？

よろしく頼むよ

POINT

元本払戻金による個別元本の変化に着目し、運用見直しを提案

また、投資信託の換金は口数単位で行えることを知らないお客様は案外多い。保有し続けるか売却するか判断できないお客様に対して一部売却という方法をアドバイスするのもよい。